

## 自己評価報告書

平成23年 5月16日現在

機関番号：32668

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330177

研究課題名（和文）手話・舞踊・演劇の言語性・非言語性と共感の相互関係を利用した異文化理解教育

研究課題名（英文）Intercultural education using the relationship between human empathy and linguistic/non-linguistic aspects in sign language, dance and play.

研究代表者 齊藤 くるみ (Saito Kurumi)

日本社会事業大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：30225700

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：多文化教育、共感、手話、舞踊、演劇

## 1. 研究計画の概要

手話・演劇・舞踊という身体表現と、言語的・非言語的コミュニケーションの関係を探り、それらを視覚的に認知することにより、他者の共感が養われることを証明し、言語的身体表現・非言語的身体表現を利用した他言語・異文化理解のための教育プログラムを開発することを目的とする。計画は以下の通りである。

- (1) 手話・演劇・舞踊の中の言語性・非言語性の解明を通して、教育への応用の可能性を探る。
- (2) 上記(1)をろう者と聴者の相互理解に応用して言語性・非言語性を比較検討する。
- (3) 手話・演劇・舞踊による共感を検証するための尺度を作成する。
- (4) ろう者と聴者を演劇的手法・ダンスセラピーで理解させるプログラム試案を作成する。
- (5) 手話による演劇、手話を混ぜたダンスセラピーのプログラムを作成する。
- (6) 他者意識・共感の尺度を作って、上記プログラムの効果を測る。

## 2. 研究の進捗状況

これまでに、以下の方法で成果を上げてきた。

- (1) 日本ろう者劇団を招きムーブメントシアターを実施した。
- (2) 聴者による非言語的コミュニケーションの演劇ワークショップを開いた。
- (3) ろう者の舞踏家によるワークショップを開いて、撮影し、多様な参加者のムーブメントを比較し、また視線の測定もおこなった。

- (4) ダンスセラピーの手法を使ってミラリングの実験を行った。
- (5) 小中高校の教師を集めた獲得型教育のワークショップを行った。
- (6) ろう者と聴者のインテグレーションによる授業のバリアを越える方法としての情報保障の在り方を考え、100%の保障を目指して実施した。
- (7) パソコン上で、アニメーションによるエージェントを利用して、その表情や視線をコントロールすることで、そのエージェントの理解度表出の表情・視線が学習者に与える影響（共感や自己効力感）を調べた。
- (8) フリーズフレーム、ロールプレイ、ホット・シーティング等のドラマ手法を演劇的手法の教育に取り入れた。
- (9) 手話を母語とするろう者の手話教師により、ろう者で手話のできない学生のための、日本語を介さない手話講座を開催した。

上記の分析のために以下のような知見を加えた。

- (10) ソーシャルブレインという考え方の認知的研究の成果を調べ、共感の仕組みを考察した。
- (11) ミラーニューロンの理論を調べ、特に身体表現のミラリング等の分析に応用した。  
これらの理論に基づき、共感性質問紙に加えて、以下の方法を加えた。
- (12) HEGバイタルモニターを利用して生体測定を行う。
- (13) 唾液アミラーゼ計測器を使ってストレス測定を行う。
- (14) アイマークレコーダーで視線を測定

する。

### 3. 現在までの達成度

②おおもね順調に進展している。

現在までにろう者劇団、聴者の学生、ろう者の学生、聴者の教師、ろう者の舞踏家を参加者とし、演劇・舞踊のワークショップを重ねている。また手話を母語とする手話教師による日本語を介さない日本手話のワークショップも開催した。

また最新の認知科学的な理論も調べて、様々な測定法を取り入れている。

### 4. 今後の研究の推進方策

2で列挙した様々なワークショップや実験の記録を適切に分析することに力を注ぐつもりである。

またこの結果を、実際に使用できるプログラム作成に活かすことを目指す。

### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計19件)

- ① 齊藤くるみ、「脳科学を福祉教育に活かすーコミュニケーション能力を高める授業をめざして」、『日本社会事業大学研究紀要』、査読無し、57巻、2011、179-199。
- ② 渡部淳、「教育方法としてのドラマ技法」、『授業づくりネットワーク』、査読無し、307巻、2011、14-16。
- ③ 齊藤くるみ、「バリアフリーコミュニケーションを目指す大学生のための英語教育教材」『大学教育学会誌』査読有り、59巻、2009、154-161。
- ④ Tsukidate, N., "The Effects on the Human-Agent Interaction of Users' Imagination of Sensations Experienced by the Animated On-Screen Agent", *Educational Study*, 査読無し, 52巻, 2009, 89-96.
- ⑤ 八木ありさ、「即興表現を中心とした大学生のダンスセラピーがセルフ・モニタリングと自己肯定度に与える影響」、『JAPEW 学術研究』、査読有り、25巻、2009、1-11。

[学会発表] (計9件)

- ① Tsukidate, N., Consideration of the Redundancy Principle in Foreign Language Narration, The 4<sup>th</sup> International Conference on Cognitive Load Theory 2010, The Hong Kong Institute of Education, Nov. 23.

② 槻館尚武、「アニメーション教育エージェントが示す遂行と非言語による理解度表出が学習者の自己効力感に及ぼす影響」日本教育工学会、金城学院大学、2010年9月19日。

③ 渡部淳、「教育方法のトポロジー(2)ードラマワークを活用した教師研修の可能性」、香川大学、日本教育方法学会、2009年9月27日。

④ 渡部淳、「教育方法のトポロジーードラマワークを活用した文学教材の開発」、愛知教育大学、日本教育方法学会、2008年10月2日。

⑤ 渡部淳、「学びのためのウォーミングアップ」沖縄ドラマ教育研究会 2008年4月26日。

[図書] (計4件)

- ① 渡部淳、獲得型教育研究会、旬報社『学びを変えるドラマの手法』2010、221頁。
- ② 渡部淳、日本国際理解教育学会編、明石書店、『グローバル時代の国際理解教育』2010、(17-25)
- ③ 齊藤くるみ(代表者木村護郎クリストフ、渡辺克義)、世界思想社、『媒介言語を学ぶ人のために』2009、(104-122) (「視覚言語の交差点ー国際手話」)
- ④ 渡部淳、J・ノーランズ、晩成書房、『教育方法としてのドラマ』、2009、172頁。